

# 東日本大震災 新潟民医連支援ニュース

2011年4月13日発 NO.5

新潟民医連対策本部 電話 025-224-4073

Email: miniren@niigata-min.or.jp



地震発生から一カ月以上が経過しましたが、以前大きな余震が続き、先が見えない原発事故とあわせ東日本全体が大きな不安に包まれていますが、力強い復興の足音も聞こえてきます。

新潟民医連これまでの支援（21・老福連共同支援含む）

◇支援者 4/12 現在70人 のべ135日

（医師9 看護師14 薬剤師8 介護・技術系12 事務他27）

◇義援金到達（一次集計）485万円

## 新潟県の要請で下越病院院長チームJMAT宮城石巻へ出発

### 下越病院 樋口看護師長松島現地レポート

4/1 から小川医師他6名で松島海岸診療所へ（小川医師は坂総合へ）組合員への相談活動に。松島海岸より北にある野蒜地域は瓦礫の山、私たちが面会できた家は3件程で、父親は出かけており難を逃れていたが、長男は家族が心配で車で自宅に向かっている途中で津波にのまれ死亡。自宅にいた家族は2階に避難して無事など痛ましい状況をお聞きしが、何の励ましの言葉をかけることもできず帰ってきた。ガソリンがなく、車がない、薬がなくなりそうの間引いて飲んでいて体調を壊したりという話も伺った。松島海岸診療所はヘドロ除去後、下には海水がたまっておりポンプで汲み上げを行う作業や松島海岸沿いの組合員さん宅のヘドロの掃除を行った。乾燥したヘドロに水をかけながらの除去作業は大変地道なものであった。今後はこのような生活支援が必要と実感し、被災し家族を失った方たちへの接し方はデリケートな内容で勉強になった。

### 新潟の避難所へ回診、診療所に受診される方も

坂井輪診療所安達所長や看護師が土日や休診の時間帯を利用し、西地区の避難所へ巡回診療。急性胃腸炎で前日急患センターに受診した患者さんがおられ、休診でしたが脱水状態のため当診お連れし点滴をしました。被災地へは行けなくても近隣の医療機関は被災者医療に頑張っています。

## 第16回学術運動交流集会で支援報告・下越病院では支援報告会を3回開催

4月6日（土）に開催された第16回学運交にて、ながおか医師協かんた診療所の星野所長と、下越病院の松田リハ課長から現地支援報告があり、阪神、中越、東日本大震災と支援に参加した星野先生からは、それぞれの災害の特徴と長期的支援活動のために離れた新潟での日常活動をしっかり行いながら活動していくことが述べられた。下越病院では一斉地方選挙の学習と合わせて支援報告会が3回開かれ、この間支援に参加した6人が交代で現地報告を行いました。

